

京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

京都の文化世界遺産シリーズ その8



龍安寺 (りょうあんじ)

龍安寺の地は、藤原北家の流れを汲む徳大寺家の山荘であった所を、室町幕府の管領で「応仁の乱」の東軍総帥として知られる細川勝元が、譲り受けたものです。1450年(宝徳2)、細川勝元は妙心寺5世住持の義天玄承(玄詔)を開山に迎え、龍安寺を創建しました。当初の寺地は現在よりも遥かに広く、600m

ほど南の京福電鉄の線路辺りまでが境内だったと伝えられています。

創建まもなく龍安寺は、細川勝元自身が当事者の応仁の乱(1467-1477年)で焼失してしまいますが、勝元の子の政元と、4世住持・特芳禅傑により1488年(長享2)に再興されました。寺では特芳を中興開山と称しています。

1499年(明応8)に方丈が建立され、石庭もこの時に造られたと言われています。1797年(寛政9)火災によって方丈、開山堂、仏殿等の主要伽藍が焼失し、塔頭の1つである西源院の方丈を移築して現在の方丈(本堂)としました。その後、豊臣秀吉や江戸幕府が寺領を寄付して保護されました。

1975年にエリザベス女王が日本を公式訪問した際に龍安寺の石庭を見学され絶賛した事が海外メディアでも報道された事もあり、昨今では日本文化のブームも影響し、日本人より海外観光客の方が多くなると言われています。この石庭は不思議なことがあります。石庭の石の数を数えてみると、15個の石があります。そして、座って石庭を眺めてみます。すると、どこから見ても石の数が一つ足りないという現象です。

鏡容池と呼ばれる広大な池には大小三島を配し、衣笠山を借景とした池泉舟遊兼回遊式の庭園があります。見どころは、この池の西畔から衣笠山を眺めるスポットで、特に紅葉シーズンの夕暮れの景観は見事で、石庭土塀ごしの紅葉、庫裏石段のモミジのトンネルはとても美しいです。



足を五本指に開放することで、得られる健康は、外反母趾の矯正、姿勢の矯正、冷え性緩和など、計り知れないものがあります。

この商品は、意匠登録・商標登録の出願をしています。

